

須崎道路の津波避難路としての検証（1）—避難シミュレーションの実施

1. 検討の目的

多ノ郷、桐間地区の避難対策は須崎市津波避難総合対策専門委員会の主要議題で、すでに繰り返し議論してきたテーマである。同地区は東西約 1 km、南北約 600 m の狭い埋め立て地で、9 か所の大型商業施設、娯楽施設と団地があり、昼間にクルマ 2 千台、人口 2 千人を超える賑わいがある（須崎消防署 24 年 8 月 29 日調査）。今後さらなる調査が必要であるが、約一人一台の車の利用状況にあり、車は住民にとって無くてはならない足となっている市街地で、いざ地震、津波が発生した場合に、一斉に車で避難すれば、千台以上のクルマが須崎道路に集中し、大渋滞が発生するのみならず、それによって多くの犠牲者が生じることが想定される。

しかもこのクルマは不特定多数のドライバーで、須崎市周辺の市町村から多く来訪しており、津波に対する意識にも差異があり、このことが被害を拡大すると考えられる。

このため、津波発生時における周辺道路からの須崎道路への避難を考える場合、ドライバーの意識、発生源である商業店舗などの対策違いを踏まえ、避難シミュレーションを実施し、感度分析し避難時における須崎道路等の弱点を把握し、大型商業施設等から不特定多数の客の避難誘導方法、緊急駐車場（停車場）の整備計画等の津波減災対策を検討するための基礎資料を得ることを目的に検討を行う。なお、本検討結果は、別途須崎市で実施されている「多ノ郷、桐間地区連絡協議会」へ報告し、事業所の避難対策を検討するための有効な情報とする。

2. 検討項目

2.1 避難対象と避難方法等の現況整理

(1) 多ノ郷、桐間地区における避難対象者数、発生交通量の設定

多ノ郷、桐間地区における大型商業施設等の利用実態状況調査をもとに、避難対象者数、発生交通量（駐車台数）等を設定する。祝祭日、休日、時間帯などいくつかの条件を考える。

(2) 多様な津波と多様な避難方法の組み合わせ

近地、遠地まで 3, 4 ケースの津波と誤った避難が起きることを想定した組み合わせで感度分析を行う。高知県等で実施された津波浸水シミュレーション及び地震・津波被害想定等によって、地震による建物、道路等の被害、津波浸水想定範囲、津波到達時間等を設定する。

(3) 防護林を考え流速を落とした場合、パーキング整備など本線渋滞した場合との比較

津波避難防護林を整備した場合の津波の流速が落ち、避難できるクルマが増える効果、パーキング等を整理した場合の渋滞を回避し、交通容量が増えた効果を把握する。

3. 避難シミュレーションのレベルとプレゼンテーション

想定津波については中央防災会議の想定津波を使う。専門委員会、連絡協議会でプレゼンテーションすること

4. 最適な避難と施設整備を提案

近地、遠地の最適な津波避難と必要な対策を提案する。